

# せん妄①

## ● 厚生労働省によるせん妄の定義

- せん妄とは、身体疾患や医薬品、物質中毒・離脱などにより惹起され、他の神経認知障害では説明できない、急性に発症する注意・意識・認知の障害である。

出展:厚生労働省 せん妄

せん妄は長期的な死亡率の上昇や認知機能の低下とも関連があるため、臨床現場ではせん妄の予防や早期発見、早期対応が極めて重要となる。

## ● DSM-5によるせん妄の診断基準

A	注意の障害（すなわち、注意の方向づけ、集中、維持、転換する能力の低下）および意識の障害（環境に対する見当識の低下）
B	その障害は短期間のうちに出現し（通常数時間～数日）、もととなる注意および意識水準からの変化を示し、さらに1日の経過中で重症度が変動する傾向がある
C	さらに認知の障害を伴う（例：記憶欠損、失見当識、言語、視空間認知、知覚）
D	基準AおよびCに示す障害は、他の既存の、確定した、または進行中の神経認知障害ではうまく説明されないし、昏睡のような覚醒水準の著しい低下という状況下で起こるものではない
E	病歴、身体診察、臨床検査所見から、その障害が他の医学的疾患、物質中毒または離脱（すなわち乱用薬物や医薬品によるもの）、または毒物への曝露、または複数の病因による直接的な生理学的結果により引き起こされたという証拠がある

上記A～Eのすべてを満たす場合にせん妄と診断する。

## ● せん妄と認知症の臨床的特徴

	せん妄	認知症
発 症	急激	緩徐
日内変動	夜間や夕刻に悪化	変化に乏しい
初発症状	錯覚、幻覚、妄想、興奮	記憶力低下
持 続	数時間～一週間	永続的
知的能力	動搖性	変化あり
身体疾患	あることが多い	時にあり
環境の関与	関与することが多い	関与ない

### ● せん妄の予防とケア

1. せん妄の原因となる身体因子の調整  
水分、電解質バランス、血圧、排泄、睡眠覚醒リズム、疼痛
2. 環境調整  
感覚遮断状態のは是正、慣れ親しんだものを周りに置く
3. コミュニケーションの工夫  
頻繁な声掛け、ゆっくりと大きな声で、一度に一つのこと、現在の状態と治療について、言葉で説明（理解していないようでも効果ある）
4. 家族の援助  
家族の不安への対処

### ● せん妄の薬物療法

幻覚、興奮などに対してハロペリドール（セレネース）やリスペリドン（リスピダール）などの抗精神病薬が処方される。また、睡眠覚醒リズムの回復のため、睡眠導入剤が使われることもある。従来用いられてきたベンゾジアゼピン系は筋弛緩作用などの副作用があり、使用には慎重でなければならない。最近は、ラメルテオン（ロゼレム）やスボレキサント（ベルソムラ）が処方されることが多い。

### ● 家族への対応も重要

急激な精神状態の変化は、同居する家族に衝撃を与え、不安と動揺のなかで介護拒否や虐待などを引き起こす可能性がある。今、何が起こっているか、せん妄とはなにか、今どうすればいいかについて、必要な情報提供を行うことが求められる。